

目次

I. はじめに	1
II. 今年度の取組概要	3
1 地域連携教育推進室の運営体制	3
2 地域連携教育推進室のあゆみ	4
3 プロジェクト科目	5
4 地域共生論	7
5 沖島フィールドトリップ	7
6 スタディツアー：湖岸集落菅浦を歩く	8
7 講演会	8
8 アイデアコンテスト2018出場	14
9 多文化共生イベント「中華文化祭」	14
10 JCMU交流プロジェクト	15
11 学生のSDGs活動「ラオス訪問」	15
12 SDGsワークショップ	16
13 地域連携教育推進室図書	16
14 相談業務	17
15 広報活動	18
III. 各取組の詳細	19



I はじめに

地域連携教育推進室は、いわゆる就職活動が解禁になった際に行われる従来型の就職支援ではなく、1回生～2回生の早い時期から卒業にいたるまで継続的に「社会人基礎力」の育成をはかることを目的としています。就業力育成のプロジェクトは、2010年秋に発足し、今年で8年目を迎えて、多様な「社会人基礎力」育成のためのプログラムが用意されるようになりました。

本学の「社会人基礎力」を高めるプログラムは、大きく3つに分けることができます。

① PBL (Project Based Learning) 科目です。従来の大学の講義とは異なり、地域社会やNPOを含む企業が実際に直面している課題を学生と共有し、地域社会や企業と学生が共同で解決していく活動を通じて「社会人基礎力」を育成する科目です。

② インターシップです。インターシップとは、簡単にいうと大学生が社会に出る前の在学中に企業で働く経験をすることです。就職体験を通じて、リアルに近い就業体験の中から「社会人基礎」を育成するプログラムです。

③ ボランティア活動です。本学の学生たちが主体となって、地域社会や企業の課題を発見し、地域の方々と一緒に課題の解決を図るプログラムです。このプログラムは単位が出るわけでもなく、また就職に直結する活動ではありません。学生の自主性が最も問われるのがこのプログラムだと言えます。

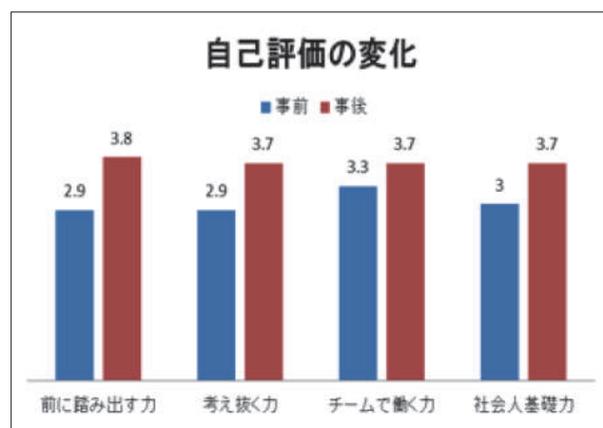
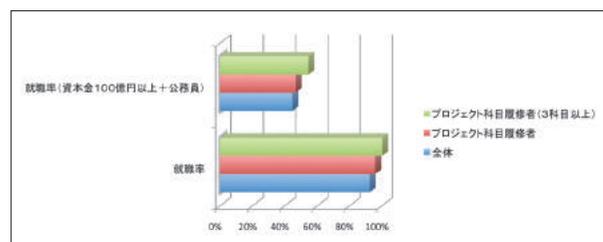
本学では、以上の系統に沿った様々なプログラムを地域の自治体や企業、NPOと広く連携し、開発することで学生の「社会人基礎力」向上に取り組んでいます。

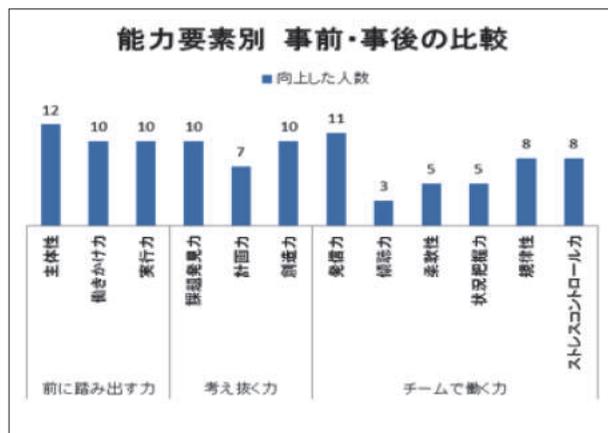
学生の「社会人基礎力」を育成していくためには、従来型の大学での講義ももちろん大切ですが、地域連携教育推進室を中心とした実践型・問題解決型で、地域社会に開かれた教育プログラムも大切なのです。

上記のようなプログラムを開発し、実践していく上で重要なのが、地域連携教育推進室の「相談業務」です。

「相談業務」というと堅苦しく聞こえてしまいますが、授業の合間に休憩をしたり、勉強をしに来たりする学生と何気なく交わす会話の中で、様々な挑戦の機会を紹介したり、アドバイスをしたりすることがその主な内容です。「相談業務」の中で、新しい教育プログラム開発のアイデアを学生と議論したり、現在進行中のプログラムのより効率的な解決策を発見したり、また、先生や仲間との絆を深めていくことで、課題の発見や解決だけでなく、上下関係を含む人間関係も学んでいくのです。こうした何気ない交流の中でも、「社会人基礎力」の向上が図られるのです。

こうした取り組みの成果は、量的にはかることが極めて難しいものですが、ここにひとつのデータがあります（下図）。





プロジェクト科目を履修した学生の就職率です。2009年度及び2010年度入学者の既卒業者998名中、123名がプロジェクト科目を1科目以上修得しており、プロジェクト科目を履修した学生の就職率が高くなっています（95.8%）。さらに、3科目以上履修している学生に限って言うとその就職率は100%です。また就職先を資本金100億円以上、もしくは公務員に限っても、やはりプロジェクト科目履修者の就職率は平均に比べて高く、3科目以上の履修者はさらに高いという結果が得られました。

地域連携教育推進室の目的は、「社会人基礎力」の育成であり、必ずしも就職率を高めたり、また学生を大

企業に就職させることを目的としたものではありませんが、注目すべきデータのひとつであると思います。

また、受講生による主観的評価においてもその成果が表れています。長期実践型インターンシップに参加した学生に事後アンケートをとって見たところ、平均値でみて、「前に踏み出す力」、「チームで働く力」、「社会人基礎力」のいずれも伸びたと感じていることがわかります。また、能力要素別にみると、特に主体性や発信力などにおいて高くなった認識していることがわかりました。

昨今、PBL型講義やインターンシップの拡充が全国的に顕著になってきています。その背景には、こうした「成果」があるのかもしれませんが、しかし、われわれが強調したいのは、こうした定量的な成果以上に、肌で感じる学生たちの成長なのです。ひとりひとりの学生と顔の見える関係を形成し、学生と共に地域の課題を発見し、解決していく。またプログラムについても意見を交換し、一緒に仕事を作り上げ、達成していく。こうした中で、学生の成長を肌で感じるができるのです。

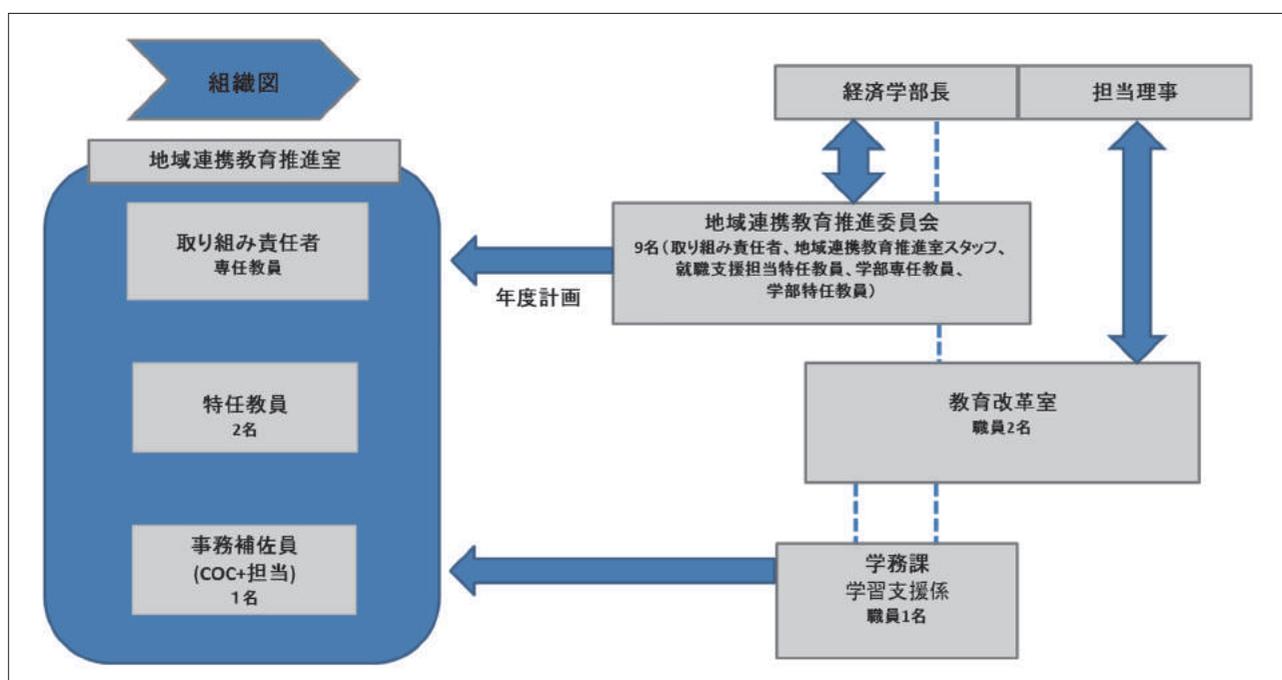
（取組責任者：柴田淳郎）

II 今年度の取組概要

1 地域連携教育推進室の運営体制

今年度も、地域連携教育推進室は、特任教員2名、事務補佐員1名および取組責任者である専任教員名を加えた5名体制で日常業務にあたりました。なお、2017年2月1日からは、文部科学省の「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」のための事務補佐員を雇用し、協働して事業の推進にあたりました。

年度計画の策定や進捗管理については、地域連携教育推進協議会において適宜協議しながら、事業の執行を行っています。



2 地域連携教育推進室のあゆみ

地域連携教育推進室の活動は、文部科学省の「大学生の就業力育成支援事業（2010-2011年）」の支援を受けて2010年秋にスタートしました。

当初は個別大学の取り組みとして始まった活動も2012年からは、文部科学省「産業界ニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業【テーマA】（2012-2014年）」の助成を受けて、滋賀・京都・奈良の16大学の連携事業（「滋京奈地区を中心とした地域社会の発展を担う人材育成」事業）に発展をしました。この取組では、地元の企業、経済団体、地域の団体や自治体等と産学協働連携協議会を設置して、そのもとにインターンシップ、PBL、キャリア形成、産業界連携という4つのテーマ部会を設けて、産業界（社会）のニーズに対応し、社会的・職業的にも自立した人材の育成に向けた教育の充実を図ってまいりました。

この取組の過程では、地理的にも近い湖北・湖東地域4大学（滋賀大学、滋賀県立大学、聖泉大学、長浜バイオ大学）が独自の連携事業を展開し、連携フォーラムや交流合宿などこれまでに無い大学連携を行って来ています。

【テーマA】終了後の2015年度以降は、学内予算を措置して取り組みを継続してきました。

また、滋賀・京都・奈良の11大学と連携して進めてきました文部科学省「インターンシップ等の取組拡大【テーマB】」は2015年度で終了しましたが、この成果を受けて2016年7月に滋賀、京都、奈良の16大学・短大と10団体もの地域経済団体が連携し滋京奈地域人材育成協議会が設立されました。本学も会員大学として社風発見インターンシップをはじめ、合同企業説明会や企業研究会、学生と企業の交流会に参画しました。

さらに、2015年度から始まった文部科学省の「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」も、幹事校である滋賀県立大学と協働して事業の推進の一翼を担いました。

3 プロジェクト科目

春学期

働き方探求プロジェクト2018春

企業経営者と語り尽くす@彦根商工会議所

期 間 2018年4月10日から7月17日

受 講 生 30名

担当教員 柴田 雅美

地域活性化プロジェクト2018春

学んで、実践！ひこねのまちガイド

期 間 2018年4月10日から7月17日

受 講 生 30名

担当教員 柴田 雅美

働き方探求プロジェクト2018春

市議会議員と地方自治について考えよう

期 間 2018年4月11日から7月18日

受 講 生 34名

担当教員 柴田 雅美

プロジェクト型インターンシップ2018

期 間 2018年6月23日から2018年10月12日

受 講 生 21名

担当教員 柴田 雅美

秋学期

働き方探求プロジェクト2018秋

教育現場の経験から社会を考える

期 間 2018年10月2日から2019年1月22日

受 講 生 20名

担当教員 柴田 雅美

働き方探求プロジェクト2018秋

密着！探求！彦根の中小企業

日 時 2018年10月2日から2019年1月22日

受 講 生 22名

担当教員 柴田 淳郎、柴田 雅美

SDGsプロジェクト2018秋

学び・調べ・発信する 持続可能な開発目標・SDGs@滋賀大学

日 時 2018年10月4日から2019年1月24日

受講生 20名

担当教員 柴田 淳郎、柴田 雅美、中塚 智子

SDGsプロジェクト2018秋

連続講座 持続可能な開発目標・SDGsマインドを身につける

期 間 2018年10月4日から2019年1月24日

受講生 33名

担当教員 柴田 淳郎、中野 桂、柴田 雅美

働き方探求プロジェクト2018秋

地域活性化プロジェクト

学生の視点に基づいた地域の価値観を高める

サービスエリアの長期戦略の考察と提言

期 間 2018年11月26日から2019年1月21日

受講生 46名

担当教員 柴田 淳郎

2018秋 社風発見インターンシップ

期 間 2018年11月16日から2019年2月26日

受講生 5名

担当教員 柴田 雅美

ヤリカタワークショップ2019春休み

SDGsマインドを体得し、地域社会のテーマに取り組む

期 間 2019年2月12日から2019年2月14日

受講生 57名

担当教員 柴田 雅美・近藤 紀章

働き方探求プロジェクト2019春休み

ドキュメントひこねびと 「彦根発 気鋭の若手経営者」

期 間 2019年3月4日から2019年3月7日

受講生 20名

担当教員 中塚 智子・柴田 雅美

春・秋学期

国際交流ワークショップ・プロジェクト2018春・秋

期 間 2018年4月12日から7月19日
2018年10月17日から2019年1月25日

受講生 春37名、秋19名

担当教員 柴田 淳郎、柴田 雅美、田村 あずみ

グローバル・インターンシップ2018夏・2019春

期 間 2018年8月27日から9月15日
2019年2月18日から3月9日

受講生 夏4名・春4名

担当教員 弘中 史子、田村 あずみ、柴田 雅美

4 地域共生論

期 間 2018年4月12日から7月19日

受講生 219名

担当教員 柴田 淳郎、柴田 雅美、澤木 聖子、近藤 紀章他

5 沖島フィールドトリップ

日 時 2019年2月16日（土）

場 所 滋賀県近江八幡市沖島町

内 容 地域理解の一環として、本学の学生12人が、ミシガン州立大学連合日本センターの留学生らとともに、琵琶湖の有人島「沖島」を訪問しました。到着後、まずは住民の方の案内で一時間ほど散策し、沖島の自然や人々の暮らしを肌で感じました。昼食後に願證寺本堂で開かれたシンポジウムでは、奥村繁さん（沖島漁業協同組合組合長）、本多昌道さん（願證寺住職）、本多有美子さん（沖島町離島振興協議会）、久保瑞季さん（「座・沖島」前代表）から主要産業である漁業や、島民を支えてきた仏教の歴史について、また若い移住者から見た沖島の魅力について、お話いただきました。少子高齢化や、便利さを追求した結果としての環境破壊といった、沖島が抱えている課題は、日本社会が抱える課題でもあります。島の未来に向けて、住民同士の絆や助け合いの精神など、沖島に元々ある価値観を大切にしていきたいというお話が印象に残りました。今回はお話を聞くことが中心でしたが、ご協力いただいた島民の方は学生からのフィードバックも期待しており、今後も交流を続けてゆければと思います。

参加者 26名（滋賀大生12名、JCMU生12名、教員2名）



6 スタディツアー：湖岸集落菅浦を歩く

- 日 時 2019年3月19日（火）実施予定
- 場 所 滋賀県長浜市西浅井町菅浦
- 内 容 滋賀県内で52年ぶりに国宝指定された菅浦文書（所有者：須賀神社、滋賀大学経済学部附属史料館寄託）を伝えた奥琵琶湖の湖岸集落菅浦を訪ね、日本の自治の歴史について学びます。菅浦文書は、中世から近代にかけての集落構造や共同体のあり方を明らかにした稀有な文化財として日本史研究上名高く、そして、この菅浦文書を守り伝えた地区である菅浦は、いまなおその集落構造を大きくは変化させずにいながら、自治の歴史を根強く継承させています。本スタディツアーでは、専任教員による中世史・近世史の解説を受けながら、現代の菅浦の生活空間を実地として触れることで、民衆の間で形成されたその自治空間がいかに維持・変容したのかを考察し、現代における自治・公共的なものについての理解を深めます。

7 講演会

地生き講演会「地域活性化ってなんだろう？」

- 開催日 2018年5月15日（火）
- 講師 山本 ひまりさん フリーアナウンサー
- 内 容 学生からの企画提案で「メディアを使った地域活性化とは？」をテーマに講演会を開催しました。講師には、フリーアナウンサーで、BBCびわ湖放送でキャスターをされたり、「いしだみつにゃん」などのご当地キャラクターを描くイラストレーターとして活躍されている山本ひまりさんを迎えました。アナウンサーの仕事や地域との関わり方、コミュニケーション能力の高め方など、体験に基づいたお話を伺うことができました。
- 受講生 11名



COC+講演会

第1回「JINSにおける『経営戦略実現』に向けた取り組みについて」

開催日 2018年11月5日（月）

講師 飯塚翼氏 株式会社ジズ人事戦略室

内容 2018年11月5日（月）株式会社ジズ（以下ジズと略記する）人事戦略室 飯塚翼氏をお招きし、地域連携教育推進室講演会を開催しました。

ジズは1988年7月に群馬県前橋市にて創業されたベンチャー企業である。2018年現在、本会社は売上高548億円を記録し、日本のメガネ市場を代表する企業にまで成長を遂げました。本講演では、成熟市場であるメガネ市場で、ジズがなぜ急成長を遂げることができたのか、また今日までの急成長の中で、経営戦略や経営組織をどのように構築してきたのか？その秘訣についてご講演いただきました。

本会社の急成長の要因は、韓国のメガネビジネスのビジネスシステムやアパレル産業では既にドミナントなビジネスシステムとなっていたSPAを導入したことが契機となっており、創造的模倣という概念で理解することができる。メガネ産業のような成熟市場においても創造的模倣の有効性が示されたという点でも経営学的に非常に興味深い講演会となりました。

受講生 250名



講演の様子



学生の様子

COC+講演会

第2回「新しい山中漆器とリデザイン」 ～伝統工芸産地の再活性化について考察する～

開催日 2018年12月3日(月)

講師 我戸正幸氏 株式会社我戸幹男商店代表取締役

内容 経済学部地域連携教育推進室では、学生に従来の座学だけでなく、企業や行政と共同で地域が抱える問題を共有し、課題解決を行うことで、実践知を獲得する機会を提供することを目的に講演会を開催しています。

今回は、12月3日(月)に株式会社我戸幹男商店(石川県加賀市)の代表取締役我戸正幸氏を招聘して開催しました。本講演では、我戸氏に山中漆器の歴史や製品開発のプロセス、また成功する製品開発のあり方—この考え方がリデザイナー—についてご講演いただきました。

日本の古くからある伝統工芸産地の多くは現在苦境を迎えています。バブル期を絶頂に現在では産地の存続自体が危ぶまれることも少なくありません。消費者ニーズの質的変容や少子化の影響で地方の労働人口自体が減少していることもその大きな原因となっています。このような状況の中で、同社は新しい山中漆器を開発し、国内だけでなく、アウトバウンドでも大きく売り上げを伸ばし、さらに海外でもその優れたデザインや技能で多くの賞を受賞している稀有な企業です。

我戸氏の事業継承時より数々の失敗を重ね、売れる商品を開発できるまでのストーリーは非常に新鮮かつ具体的に、学生も講演の内容にとっても引き込まれたようで、「伝統産業の素晴らしさを理解できました!」「製品開発の難しさや面白さを実感できました!」「実際に山中漆器を見学したい!」など、肯定的な意見が目立ちました。

本講演を契機に学生は伝統産業が抱える問題について広く学習すると共に、製品開発の困難さや面白さについても具体的に学習でき、非常に盛り上がった講演会となりました。

受講生 250名



講演の様子



学生の様子

COC+講演会

第3回「ユニバーサル・スタジオ・ジャパン™の集客戦略」

開催日 2019年1月21日（月）

講師 村山卓氏 合同会社ユー・エス・ジェイ

External Affairs Vice President & マーケティング本部副本部長

内容 1月21日（月）合同会社ユー・エス・ジェイ（以下ユー・エス・ジェイと略記する）External Affairs Vice President & マーケティング本部副本部長 村山卓氏をお招きし、彦根観光協会と滋賀大学経済学部共催で地域連携教育推進室講演会を開催しました。

ユー・エス・ジェイは「ユニバーサル・スタジオ・ジャパン™」を企画・運営する会社です。近年のユニバーサル・スタジオ・ジャパン™は設立当初の経営不振を払拭し、2017年にはテーマパーク入場者世界ランキングで第4位を記録し、昨年だけで約1500万人（インバウンドが300万人）が来場する世界的テーマパークへと成長を遂げました。このような世界的成功の裏にはどのようなマネジメントが存在したのでしょうか？

本社の世界的成功には統計学を駆使したマーケティング・マネジメントが存在しました。講演会では具体的なCMが取り上げられ、どのようなターゲットに、どのように訴求するのか等、具体的なケーススタディをもとに、様々なマーケティングのノウハウや鍵となる概念を学ぶことができました。学生の関心も非常に高く、講演会は滋賀大学彦根キャンパスで最も大きい大合併教室が超満員、講義内だけでなく、講演後も多くの学生が村山氏のもとに集まり、たくさんの質疑応答がなされ、大盛況のもとに終わることができました。

参加者 500名



USJ副社長村山卓氏の様子



超満員の様子

SDGs講演会

第1回「聞こえない世界から見えてきたこと」

開催日 2018年11月22日（木）

講師 尾中 友哉氏 株式会社 Silent Voice／NPO法人 Silent Voice 代表

内容 11月22日（木）に、本学彦根キャンパスにて、株式会社 Silent Voice／NPO法人 Silent Voice 代表 尾中友哉さんを招聘し講演会を開催、約30名が聴講しました。

講演では、聴覚障害者の両親を持つ子ども時代からの体験や、そのなかで自分にしかできない仕事とは何かを模索され、現在の事業に取り組まれることになった経緯。そして、目指すべきこれからの社会について熱のこもった講義をしていただきました。また、本学卒業生として、自身の会社員時代のお話もしていただき、学生には自身のキャリアデザインを考える機会になりました。

受講者 30名

SDGs講演会

第2回「JICAの業務とミッション～SDGs達成に向けたJICAの取組」

開催日 2018年11月29日（木）

講師 西野 恭子氏 国際協力機構（JICA）関西 所長

内容 11月29日（木）に、本学彦根キャンパスにて国際協力機構（JICA）関西 所長 西野恭子さんを招聘し講演会を開催、大学生や一般市民など約30名が聴講しました。

講演では、「私たちが存在する世界とSDGs」「JICAについて」「SDGsとJICA」の3つのテーマでお話いただきました。開発途上国であるナイジェリア、ケニア、ミャンマー等の教育や病院、交通インフラの現状と課題の紹介、そのなかで政府機関としてJICAが担うミッションとビジョン、JICAとしてのSDGs達成に向けたアクションについて、具体的事例を豊富に交えたご講演でした。

講師の西野さんから大学生に対し、SDGsへの取組はボトムアップが大切で、17のゴールは全てが繋がっている、まずは自分が興味を持てることを掘り下げて欲しい。私たち日本人にとっては食品ロスを半減させることが身近にできる取組ではないかという提案や、就職活動においてもSDGsへの取組が企業選びの指標になる、その企業はきっと働きやすい職場だと思うなど、大学生にとって身近な視点も提供していただきました。講演の最後には、SDGs17のゴールの達成を目指す2030年には、ここにいるみなさんが主役の世界であり活躍を期待しますとのエールもいただくなど、熱のこもった講演会になりました。

受講者 30名

SDGs 講演会

第3回 「UNDP とSDGs～持続可能な未来への取り組み」

開催日 2018年12月7日（金）

講師 近藤 哲夫氏 国連開発計画（UNDP）駐日代表

内容 12月7日（金）に、本学彦根キャンパスにて国連開発計画（UNDP）駐日代表 近藤哲夫さんを招聘し講演会を開催、大学生や一般市民など約30名が聴講しました。

講演では、「UNDPの組織」「SDGsとUNDPの取り組み」「日本でのSDGs達成度」のテーマでお話しいただきました。UNDPが国連システムの中核的な開発機関として世界約170の国で、「貧困の根絶」「持続可能な開発に向けての構造改革」「危機対応力の強化」の3つの重点分野で活動されていることや、Development（開発）はTake the potential out of People（人間の可能性を引き出す）であること、その結果として、世界で約300万人の新規雇用を創出したり、1億7千万人の新規有権者登録を実現していること、840件の環境保全プロジェクトを実施していること等について、ご自身の海外活動での経験を踏まえたくさんの事例をご紹介いただきました。

また、「なぜ今、持続可能な開発なのか」について、地球の上の様々な種がこれまで絶滅してきたし、私達も絶滅の道を歩むかもしれない。その最大の理由は気候変動である。しかし、私達は地球上で初めて自らの意思で絶滅を避けることができるかもしれない、そのための目標がSDGsなのだと、学生たちに向け力説していただくなど、大変熱のこもった講演会になりました。

講演後には大学生や参加者との交流機会をもっていただき、参加した学生からは国際機関で働くためのキャリアパスの考え方など、それぞれの目線で質問をさせていただくことができました。

受講者 30名

SDGs 講演会

第4回 「FAOの業務とミッション-SDGsの視点から」

開催日 2018年12月20日（木）

講師 Mbuli Charles BOLIKO氏 国際連合食糧農業機関 駐日連絡事務所長

内容 12月20日（木）に、本学彦根キャンパスにて国際連合食糧農業機関 駐日連絡事務所長 Mbuli Charles BOLIKOさんを招聘し講演会を開催、約30名が聴講しました。

講演では、「SDGsとは何か」「FAOの業務」「世界の食料・農業事情」のテーマでお話しいただき、FAOの任務として「腹がへっては、戦はできぬ 飢餓をゼロに」をあげ、食料不安が戦争・内戦につながる事、戦争・内戦がさらに深刻な食料不安に連鎖していくことや、一方で増加傾向にある肥満の問題と、食料ロス・廃棄が深刻な問題であることをお話しいただきました。

学生へのメッセージとして、SDGsの達成には非常に多種多様な課題への取り組みがあるが、私たちが身近な問題としてすぐに取り組めることが食料ロス・廃棄をなくすことであり、食への関心を持って今から取り組んでほしいと言葉をいただきました。

受講者 30名

8 アイデアコンテスト 2018 出場

開催日 2018年9月7日（金）

場所 彦根ビューホテル

内容 COC+事業の目的の一つである雇用創出・起業促進に関連し、滋賀中央信用金庫が主催し滋賀県立大学が共催する「アイデアコンテスト2018」に本学経済学部の学生が参加しました。

今年度は台風の影響により一次審査会は書類審査になりましたが、本選に出場した本学経済学部学生によるチーム「彦根プライド」は、「彦根の民泊と周遊ルートによる地域経済活性化」をテーマに準備を行い、プレゼンテーションを行いました。まず、彦根を訪れる観光客を分析し、彦根城以外の観光スポットを周遊してもらうために何が必要か検討を行いました。そのうえで、民泊と周遊バスを活用した観光客誘致の方策と地域活性化策の提言を行いました。

経済学部で学んだ専門知識と研究成果、地元志向マインドを基に構成した発表は、地元経済界の方や他大学からエントリーした参加者が大勢見守る中で実に堂々としたものでした。また、講評の後にも審査員に積極的にアドバイスを求めるなど、前向きな姿勢が印象的でした。

学生にとっては、これまでの学修成果を示すことのできる貴重な経験になったようです。

9 多文化共生イベント「中華文化祭」

開催日 2018年11月23日（金・祝日）

場所 滋賀大学彦根キャンパス生協前広場

内容 彦根や近隣市町では就業や研修のため在住する外国人が増えています。日本人からは外国の言葉や文化がわからないことからコミュニケーションに齟齬が生まれ外国人への不安や誤解を生じるなどお互いのつながりや共生がうまく進んでいないようです。そこで今回、彦根キャンパスでの多文化共生イベントとして「中華文化祭」を開催しました。在住外国人が自らの文化を市民や大学生に発信することを通じて、お互いに理解を深め、多文化共生のできる地域コミュニティづくりを目指すものです。大学における持続可能な開発目標（SDGs）への取り組みとして目標17「パートナーシップで目標を達成しよう」に基づく取り組みでもあります。

イベントには彦根市日中友好協会や長浜市日中友好協会の協力で、彦根市と近隣町から6つ中華系グループが参加し、中華からあげや饅頭、スイーツなどの販売をしていただきました。またステージイベントでは、二胡や踊り、演歌ショーやカンフー演舞の実演があり、近隣住民や学生らは大いに盛り上がりました。



10 JCMU 交流プロジェクト

JCMU 留学生と滋賀大学生との交流プロジェクト「商店街にアメ村がやってきた！」

開催日 2018年11月24日（土）

場所 彦根市内商店街

内容 JCMU（ミシガン州立大学連合日本センター）留学生と本学学生との協働プロジェクトとして実施しました。11月24日土曜日に彦根市内の商店街で開催されるえびす講イベントにおいて、JCMU 学生との協働イベントの実施することを目標に、10月から合計5回程度のミーティングを繰り返し、イベント内容を検討しました。最終的にアメリカの文化を伝える模擬店を出すことになり、キャラメルアップル（リンゴ飴）、ポップコーン、フェイスペイント、コーンホール（アメリカの輪投げ風アトラクション）」を実施することに決定、4つのグループで準備を進めました。イベント当日は午前中から多くの来場者で賑わい、交流プロジェクトは大成功に終わることができました。

学生らは、えびす講祭りでのプロジェクトを通じて地域貢献とは何か、他者貢献の本質とは何か、ということ深く考えさせられ、新たな気付きを得ることができたようです。

参加者 本学学生10名、JCMU 学生11名



11 学生のSDGs活動「ラオス訪問」

期間 2018年9月17日から9月22日

内容 私たち東アジア経済開発研究会は夏にアジア最貧国といわれるラオスに訪れ、ラオスの現状理解と現地の人々との交流による双方理解のため主に農村部と都市部の小学校とラオス大学、現地の日本企業に訪問しました。実際に自分たちの目で見て話を聞くことは、SDGsを考える上で非常に有益な情報や考え方を得る機会となりました。

活動の大半であった学校訪問では、小学生と日本の遊びを通して文化交流をしたり、衛生についての授業を行ったりしました。また、都市部と農村部の学校では学校の環境が異なり、先生からお話を聞くことでそれぞれがどのような状況が比較することができました。最終日には2つの企業に訪問しました。現地で起業された方からは、ラオスの国民性、会社の経緯や現在の活動など生の声を聞くことができ、日本企業のラオス進出のための手助けをしている機関からは、ビジネス市場としての状況等の視点を得ることができました。

今回の活動を通してSDGsの重要性を改めて知ることができ、今後も関わり方を考えていきたいと思っています。

参加数 15名



12 SDGs ワークショップ

三宅洋平氏講演会「手、目、土－心を動かし、体を動かす」

期 間 2018年11月19日（月）、12月17日（月）

内 容 11月19日と12月17日の2回にわたって、里山経済・環境研究所代表の三宅洋平氏を招き、SDGsマインドの体得を目的にした表記の講演会を開催しました。講演会は経済学部の特設科目「ものづくり、人づくり、地域づくり」の授業と合同で、一般にも公開され、学外からも多数の市民の参加がありました。第1回目の講演では、ダムを壊すことによって自然環境のみならず、観光客などの誘致に成功した事例を紹介した、パタゴニア制作のドキュメンタリー映画「ダムネーション」をまずは鑑賞し、その後、市民の果たすことのできる役割などについて、お話をいただきました。



第2回目の講演では、種子法の廃止や水道法の改正など地域経済および環境に大きな影響を及ぼしそうな昨今の制度変更と、それに対して地域住民としてはどのような対応が可能であるかについて、ご講演いただきました。岡山県吉備中央町の山あいの集落に入り、活動を行う三宅氏の具体的な取り組みは、SDGsのあり方を考える上で、大きな刺激とヒントを与えるものでありました。

受 講 生 200名

13 地域連携教育推進室図書館

地域連携教育推進室では、学生への情報提供の場づくりの一環として、地域連携教育推進関係の書籍・DVDの蔵書を充実し、学生への書籍類の貸出を行っています。蔵書数は1403冊（2019年2月1日現在）。

働き方や生き方に関する書籍はもちろん、差別、格差、貧困、環境問題など社会問題に関わる書籍やデザインやイノベーションに関わる書籍を置くことによって、関心領域を広げながら、やりたいことを見つけ出してもらうようにしています。

また、プロジェクト科目に関連する書籍も揃え、学生がより授業の理解を深められるようにしています。



14 相談業務

地域連携教育推進室の日常業務では、学生生活や勉強、進路に関する相談も多くありました。

地域共生論や各プロジェクト科目を通じて学生の認知は高まり、地域連携教育推進室に来る学生が増えています。担当教員としては、プログラムの開発・実施に加え、学生に向き合うことが大きな業務と考え、相談には時間をかけ、考え方の指針やサポートになる書籍や学外活動の紹介を行いました。

大学において学生が人間関係を築く機会として部活やサークル、ゼミがありますが、これに加え推進室で行うプロジェクト科目や推進室が、第3の機会として活用され始めたとも言えます。部活・ゼミ等に関係なく1年生から4年生が学年横断的に交流をもち、学生の主体的活動へと発展しています。例えば、学生ら自主的に地域に関わるグループを結成し、滋賀大学の近江楽座としてJCMU交流イベントを開催したりしています。また大学関連以外でも、地域のNPOやボランティアグループが運営する子ども支援活動に参加したりなど、自ら考え行動する学生が増えています。



15 広報活動

地域連携教育推進室では、主に①ウェブ・ページ、②チラシ、③メールマガジン、④キャンパス教育支援システム(SUCCESS)を利用して、学生や関係者に対してプロジェクト科目やイベントなどの広報を行っています。

ウェブ・ページはプロジェクト科目の報告が閲覧できるようになっています。

チラシは、外注などを避けてコストを抑えつつも、スタッフの手作りで、毎回趣向をこらしたものを作成しています。

隔週木曜日発行のメールマガジンは、2011年5月から発行を開始し、これまでの発行回数は186回、登録人数は243名に達しています(2019年2月1日現在)。当室からのご案内に加え、地域のイベント・ボランティア情報も発信しています。

また、2016年度より立ち上がった「地(知)の拠点大学による地域推進事業(COC+)」のウェブ・ページでは、地域に定着し活躍できる人材の育成・イノベティブ人材の育成を目的としたイベントの情報を紹介しています。近江楽座の活動として行った「JCMU交流イベント」や「講演会」の報告もページ上で紹介しています。



Ⅲ 各取組の詳細

- ① 働き方探求プロジェクト2018春
企業経営者と語り尽くす@彦根商工会議所 …… 20
- ② 地域活性化プロジェクト2018春
学んで、実践！ひこねのまちガイド …… 21
- ③ 働き方探求プロジェクト2018春
市議会議員と地方自治について考えよう …… 22
- ④ プロジェクト型インターンシップ2018 …… 23
- ⑤ 働き方探求プロジェクト2018秋
教育現場の経験から社会を考える …… 24
- ⑥ 働き方探求プロジェクト2018秋
密着！探求！彦根の中小企業 …… 25
- ⑦ SDGsプロジェクト2018年秋
学び・調べ・発信する 持続可能な開発目標・SDGs@滋賀大学 …… 26
- ⑧ SDGsプロジェクト2018年秋
連続講座 持続可能な開発目標・SDGsマインドを身につける …… 27
- ⑨ 働き方探求プロジェクト2018秋
地域活性化プロジェクト
学生の視点に基づいた地域の価値観を高める
サービスエリアの長期戦略の考察と提言 …… 28
- ⑩ 2018秋 社風発見インターンシップ …… 29
- ⑪ ヤリカタワークショップ2019春休み
SDGsマインドを体得し、地域社会のテーマに取り組む …… 30
- ⑫ 働き方探求プロジェクト2019春休み
ドキュメントひこねびと 「彦根発 気鋭の若手経営者」 …… 31
- ⑬ 国際交流ワークショップ・プロジェクト2018春・秋 …… 32
- ⑭ グローバル・インターンシップ2018夏・2019春 …… 33
- ⑮ 地域共生論 …… 34

1

働き方探求プロジェクト2018春 企業経営者と語り尽くす@ 彦根商工会議所

期 間 2018年4月10日-7月17日

受 講 生 30名

担当教員 柴田 雅美

■ 活動報告

このプロジェクト科目は、地域実践型PBL（企業や地域の課題解決をテーマにした学び）の授業の一つとして、彦根商工会議所と連携したプログラムです。地域経済の振興を担う商工会議所のミッションや業務について理解し、企業経営者から創業や事業継承時の思い、事業の楽しさや苦しさ、展望などを伺い、最後に学生の立場から若者に響く企業の魅力発信のアイデアを提案しました。

履修学生は1年生から4年生の30名。彦根商工会議所の1Fに設けられたディスカッションスペースに、毎回4社の企業に来て頂いて、小グループのディスカッションを3回行いました。その後、若者に響く企業の魅力発信アイデアを考えるために「企業の抱える現状と課題」として市内企業2社から講義を受け、アイデア報告会に向けたグループワークに取り組みました。

7月17日には彦根商工会議所4Fホールにて「アイデア報告会」を開催しました。プレゼンテーションでは、彦根商工会議所会員企業30社に、グループワークで作成した「ものづくり企業編」「商業・サービス業編」の発表、「若者に響く企業の魅力発信アイデア 都会・大手企業就職志向・地元・中小企業就職志向」の4つの報告を行いました。

今回の取り組みは、企業経営者らを囲んでのディスカッション型の授業でしたので、実際の企業の現場を体験することはできませんでしたが、少人数で語ることで経営者の考えを深く聞くことができました。大学での専門教育が、どのように企業経営に活かされてい

るのかも知ることができ、また、学生自らのライフデザインを考えるきっかけを作ることができました。



2

地域活性化プロジェクト2018春 学んで、実践！ ひこねのまちガイド

期 間 2018年4月10日-7月17日

受 講 生 30名

担当教員 柴田 雅美

■ 活動報告

このプロジェクト科目は、大学生が地域の歴史や文化、産業への理解を深めることで彦根や滋賀への愛着を高めることはもとより、地域・日本・世界の中の自分のポジションを考える起点の一つになること、自分ごととしてプロジェクトを企画し、情報収集し、編集し発信するという一連のプロセスを経験することで、社会で活躍するためのコミュニケーション力やプレゼン力などのいわゆる社会人基礎力の向上につながることを目指して実施しました。彦根ボランティアガイド協会の協力もあり、観光ガイドを通じた地域活性化のあり方を考える機会にもなりました。

授業前半では、経済学部生30名に対し彦根ボランティアガイド協会による「彦根城やキャッスルロードを中心とした彦根のガイド」「ボランティアガイドの心構え」の講義や、ボランティアガイドさんによる彦根城ツアーを体験したり、ボランティアガイドさんが実際に観光客をガイドする現場にも同行しました。

授業後半では、前半の経験をもとに学生自らが彦根の気になるスポットを見つけ出し、オリジナルツアーを作成しました。例えば、「子どもが楽しい彦根城」「写真に撮りたい彦根」「彦根隠れ家カフェ巡り」「彦根で太ろうツアー」「とっても面白い！彦根の神社仏閣・礼拝堂をめぐるツアー」など13ものツアーが完成。実際に学生自身がツアーガイドとして履修生を案内しました。

大学生にとっては、日常はサービスを受ける側の視点ですが、ツアーガイドとしてサービスを提供する側

の視点に立つことでおもてなしの難しさを体感したようです。



3

働き方探求プロジェクト2018春 市議会議員と地方自治について 考えよう

期 間 2018年4月11日-7月18日

受 講 生 34名

担当教員 柴田 雅美

■ 活動報告

このプロジェクト科目は、彦根市議会と経済学部との連携協定のもと、地方自治や選挙についての講義、市議会議員や議会事務局による講義、市議会傍聴、議会報告会への参加を通じて、地方政治について考え、理解を深めるとともに、自らのライフデザインを考えるきっかけを提供することを目指しました。地方自治に関心のある1年生から4年生の34名が履修しました。

授業では、宗野隆俊先生から「地方自治について」、武永 淳先生から「選挙の仕組みについて」の講義を受け、また市議会事務局から議会と事務局の仕事についても講義をしていただきました。市議会議員をゲスト講師として招聘し、議員になった経緯や今取り組んでいることなどをテーマにグループディスカッションも行いました。彦根市議会6月議会への傍聴では、現場の緊張感も味わいました。さらに市議会が発行している「ひこね市議会だより」の改善を若者目線で議論し、提案も行いました。これらの取り組みを通じて地方自治や政治家という仕事を身近に感じるとともに、その重要性を理解することができました。

今回のプログラムは、知識を学ぶだけでなく、大学生自らがファシリテーションの手法を身につけることも目標の一つにしていました。講義としてファシリテーションについて理解を深めながら、実際に学生同士のグループワークを通じてファシリテーションスキルを磨きました。その上で、市議会が主催で7月13日に開催した議会報告会「カタリバ」では、「考えよう 彦根の農業」をテーマにしたワークショップ全体のファシ

リテーションと各グループのファシリテーションの両方を、大学生が行うことができました。今後も彦根市議会との連携協定を活かし、取り組みを継続していきたいと思います。



4

プロジェクト型インターンシップ 2018

期 間 2018年6月23日-10月12日

受 講 生 21名

担当教員 柴田 雅美

■ 活動報告

このプロジェクト科目は、学生の長期休暇に、企業や地域団体の課題にしっかりと関わって課題解決を目指す取り組みです。この夏季プログラムでは、彦根商工会議所青年部のHikone Work Academyプロジェクトと連携し、市内企業20社に21人の学生が履修し、2ヶ月で15日以上活動を行いました。(1年15名、2年2名、3年4名)

プログラムのねらいは、企業や地域・団体の実際の課題(テーマ)への取り組みを通じて、経営者・社員の方の姿から働くことについて学び、将来の進路選択に活かすこと、プロジェクトの成果を意識し、学生・企業ともに利点のある活動とすること、その結果として主体性・コミュニケーション力・粘り強さなどの能力を磨くことです。

学生は1社に1、2名のグループで取り組みました。受け入れ企業等の方に来学いただき会社紹介のプレゼンを聞いた後にマッチングを行いました。事前学習会を経て、このプロジェクトで意識してほしい社会人基礎力についての説明と目標設定を行いました。インターンシップ活動を経て、10月19日には受け入れ企業の方にも参加していただき、成果発表会を行いました。

企業が準備したインターンシッププログラムをただ単に行うのではなく、正解のない課題解決にチャレンジするこの取り組みでは、ニーズ把握や仮説検証を繰り返す必要があります。学生らは異世代とのコミュニケーション能力や粘り強く考え行動する能力が大いに鍛えられたと思います。



5

働き方探求プロジェクト2018秋 教育現場の経験から社会を考える

期 間 2018年10月2日-2019年1月22日

受 講 生 20名

担当教員 柴田 雅美

■ 活動報告

このプロジェクト科目は家庭環境やコミュニケーションなどに困難を抱える子どもたちの教育支援の現場を通じて、自らの働き方・社会との関係性の作り方を学ぶプログラムとして開講しました。このプロジェクト科目のねらいは、福祉や教育という複眼的視点の体得、身近に存在する社会的課題への理解、教える経験を通じた主体性やコミュニケーション能力の育成、多様な社会人との交流による複眼的思考の体得です。

私立彦根総合高等学校や市内中学校、地域の学習支援教室を運営しているNPO法人Linksとも連携し実習活動を行いました。履修は1年生から4年生の20名でした。授業は講義と実習で構成し、彦根市少年センターあすくる彦根の正田房代さんを講師にあすくるの活動を通じた子どもの状況を学んだり、スクールソーシャルワーカーの上村文子さんを講師に児童虐待の実情について学び、また、外国にルーツを持つ子どもの現状についても映像資料を用いて学び、ディスカッションを行いました。

実習では彦根総合高校の放課後学習会を中心に、さらに時間外実習として、土曜日に市内中学校で開催されている土曜教室でみる、夜間の公民館で開設されている学び育ちLL教室などで小中高校生の学習支援や交流支援に関わりました。実習現場で出会う子どもたちのなかには、小学生時代の不登校が原因で基礎知識に偏りがある者がいたり、閉じこもり気味やこだわりが強いなどの特性を持つ子どもたちも多く、子どもたちの社会性の発達を狙いとした支援も体験しました。

彦根総合高等学校では実習最終日に学生による交流イベントを開催しました。高校生へのメッセージを大学生が考え、絵を書いてカルタを作り、実際にカルタ取り大会をしました。これは毎回大いに盛り上がるイベントです。

大学生にとって、基礎学力が定着していない子どもや、他人とのコミュニケーションを苦手とする子どもと出会うことはこれまでにない経験で、戸惑いや違和感をもつことも多かったようです。また、人にわかりやすく伝える経験が学びになったとの感想もありました。



6

働き方探求プロジェクト2018秋 密着！探求！彦根の中小企業

期 間 2018年10月2日-2019年1月22日

受 講 生 22名

担当教員 柴田 淳郎、柴田 雅美

■ 活動報告

このプロジェクト科目は、地域実践型PBL（企業や地域の課題解決をテーマにした学び）の授業の一つとして、彦根商工会議所と連携したプログラムです。春学期の「経営者と語り尽くす」プロジェクト科目を一步進め、地域経済を担う彦根地域の中小企業の経営者や従業員に密着し、事業経営や働き方についてディスカッションをしたり、事業所見学したりすることで、企業の魅力や課題を深掘りし、学生目線の提案を行うプロジェクトです。授業では、市内企業6社が参加し、座学として履修学生22名と机を並べ、柴田淳郎准教授から「日本企業の経営と若年労働者の採用課題について」、入江特任准教授から「最新の採用活動事情などについて」の講義を受けました。その後、学生が6グループに分かれ企業の担当者からの企業の説明を受けたり、実際に企業見学を行い、企業理解を深めるとともに、その企業で取り組むテーマを決定しました。

テーマに対し実際に従業員にヒアリングをしたり、大学生へのアンケート調査を行うなどして、学生からの提案をまとめあげ、1月22日に彦根商工会議所で開催された成果報告会で、参加企業6社に対し報告しました。

学生が取り組んだテーマは次の通りです。

- ・「プロモーション戦略で次のステージへ」（株式会社昭和バルブ製作所）
- ・「人口減少に対する滋賀中央信用金庫の対策」（滋賀中央信用金庫）
- ・「大学生を引き込む魅力的なパンフレット」（廣瀬バルブ工業株式会社）

- ・「私たちが考えた千成亭の問題点とその解決案」（株式会社千成亭）
- ・「採用競争力の強化・地方中小企業における人材課題」（ユニバーサル製缶株式会社滋賀工場）

取り組んだ学生からは、「グループワーク、企業への訪問など様々な活動の中で自分たちで考え提案することは難しくとてもいい経験になりました。学生からの発信ができることは他の講義と違い面白い点であったと思います。また、大枠だけ決めて、それ以外は企業と学生に任せている点も良かったと思います。学生が研究したいこと、企業が調査してほしいことをグループで考え、様々な調査方法や提案の仕方などそれぞれのグループの特色が出て発表会でも面白いと感じました。僕たちのグループにはない考えを聞いて勉強にもなったし、吸収もできたのでよかった」、「企業にお邪魔して企業の方とあんな近くで接することがないので、貴重な経験ができた。チームのメンバーと共に課題に向かって取り組んで一つのものを完成させるという達成感のようなものを味わえた。最後のプレゼンまでに様々な試行錯誤をし、とても勉強になった」などの感想がありました。



7

SDGsプロジェクト2018年秋 学び・調べ・発信する 持続可能な開発目標・SDGs@滋賀大学

期 間 2018年10月4日-2019年1月24日

受 講 生 20名

担当教員 柴田 淳郎、柴田 雅美、中塚 智子

■ 活動報告

本プロジェクト科目は、学生がSDGsの基礎を学び、考え方を体得した上で学内の取り組みを取材し、記事を作成するプログラムです。この取り組みを通じて、大学での専門的な学びや学生活動とSDGsの17のゴールとの関連性を認識し、持続可能な発展や開発を自分の身近なことから捉える機会にすることをねらいとしました。学生の取材記事をアーカイブし、将来的には大学の広報で使えるSDGs資料集として完成を目指すものです。

具体的には、まずJICA関西の国際教育推進員の山本康夫氏を講師に迎え、SDGsワークショップを開催し、SDGsの基礎を学び、ワークとして身近な社会課題とSDGsのつながりや、1つのSDGsのゴールが多様に関わりあっていることを認識しました。

次に、株式会社ガイアコミュニティの風かおる氏を講師に迎え、SDGsカードゲームを実践。このカードゲームではプレイヤーが国や組織になり、他のプレイヤーと情報交換しながら持続可能な世界の実現を目指すもので、SDGsの意味をマクロ的に理解するのに役立ちました。また、プロライターを招聘し、取材と原稿作成について指導も受けた後、今回事前に応募いただいた学内の10の取り組みについて、グループに分かれ取材し記事を作成しました。

今回取材させていただいた先生やゼミ活動等の取り組みは、「子どもの貧困対策」「鍋帽子とエコロジーすごろくづくり」「地域の歴史資料の調査研究・公開」「歴史文化の復元」「インクルーシブパブリックエンゲージ

メント」「毛髪情報から心身の健康評価」「マルシェ・コミュニティファーム」「ラオスでの交流・ボランティア活動」「ラオス国立大学経営経済学部での教科書等整備、カリキュラム開発」でした。滋賀大学におけるSDGsに関する取り組みは、来学期以降も継続的に情報収集し、アーカイブする予定です。



8

SDGsプロジェクト2018年秋 連続講座 持続可能な開発目標・ SDGsマインドを身につける

期 間 2018年10月4日-2019年1月24日

受講生 33名

担当教員 柴田 淳郎、中野 桂、柴田 雅美

■ 活動報告

本プロジェクト科目は、「持続可能な開発目標 (SDGs)」への取り組みや啓発活動が行政や経済界等で活発になるなか、私たちができることは何かを考え、具体的なアクションにつなげるため、SDGsをテーマに国際機関や様々な業界での最前線の取り組み、大学研究者による講義などを連続講義として実施しました。学生がSDGsマインドを身につけるとともに、国際機関のミッションや業務を理解し、将来のキャリアを考えるきっかけになることを目指しました。

授業は毎回講師とテーマが変わるオムニバス形式とし、本学教員によるSDGsに関する取り組みや研究成果の講義に加え、ゲスト講師を招聘した回では、誰でも参加できるSDGs講演会として開催しました。SDGs講演会では、国連開発計画 (UNDP)、国連食糧農業機関 (FAO) や国際協力機構 (JICA)、本学卒業生で社会的課題に取り組む企業経営者から、事業のミッションやSDGsへの取り組みを学びました。地域連携教育推進室 SDGs講演会の詳細は、講演会 (P12~) を参照してください。

SDGs講演会

テーマ 「JICAの業務とミッション～SDGs達成に向けたJICAの取組」

開催日 11月29日 (木)

講師 国際協力機構 (JICA) 関西 所長 西野恭子氏

テーマ 「UNDPとSDGs～持続可能な未来への取り組み」

開催日 12月7日 (金)

講師 国連開発計画 (UNDP) 駐日代表 近藤哲夫氏

テーマ 「FAOの業務とミッション～SDGsの視点から」

開催日 12月20日 (木)

講師 国際連合食糧農業機関 駐日連絡事務所長
Mbuli Charles BOLIKO氏

テーマ 「聞こえない世界から見えてきたこと」

開催日 11月22日 (木)

講師 株式会社Silent Voice/NPO法人Silent Voice 代表 尾中友哉氏



9

働き方探求プロジェクト2018秋 地域活性化プロジェクト 学生の視点に基づいた地域の価値観を高める サービスエリアの長期戦略の考察と提言

期 間 2018年11月26日-2019年1月21日

受 講 生 46名

担当教員 柴田 淳郎

■ 活動報告

本プロジェクト科目は、NEXCO中日本・多賀町・滋賀大学経済学部の三者が産官学連携を実施し、地域の価値を高めるサービスエリア（SA）やパーキングエリア（PA）の将来的なあり方について学生目線を取り入れた政策提言を立案することを目的に始めました。NEXCO中日本の多賀SAの経営課題や多賀町の政策課題を検討するにつれ、地域の価値を高めるSAやPAのあり方を幅広く提言するよりも、もっと具体的な経営課題や政策課題を実際に解決するための提言が可能ではないか？ということになり、NEXCO中日本が保有し、多賀SAに隣接する敏満寺遺跡を多賀町の「子育て世代が利用できる公園の増設」という政策課題の解決に活用することとなりました。

本プロジェクトはまず学生に多賀町の政策課題や多賀SAに隣接する敏満寺遺跡及び胡宮神社の歴史的価値を知ってもらうところから始めました。ここでは多賀町の企画調整係や多賀町文化財センターのスタッフによる講義が実施されました。学生に十分に学習してもらった後に、多賀町SAやそこに隣接する敏満寺遺跡及び胡宮神社、また多賀町の中心市街地の一角である多賀大社及びその参道の視察を行いました。最後に、子育て世代が必要とする公園とはどのようなものか？という観点から多賀町子育てサークルである「パオパオ」のご協力の下、ヒアリング調査を実施しました。

こうして様々な情報を収集した上で、学生をA班からF班までの6つのチームに分けて、本プロジェクト科目の目的である多賀町の政策課題「子育て世代が利用できる公園の増設」案作成に向けて、グループワークが行われました。その結果は1月28日（月）に開催された成果報告会にて、多賀町やNEXCO中日本のスタッフ参加の下、各班の報告が実施されました。学生が考案した公園案は子育て世代のヒアリング調査の結果をいかしつつ、多様な活用案が提示されました。

公園候補地である敏満寺遺跡が中世から存続する胡宮神社や多賀SAに隣接する特性を活かして、例えば、高速道路利用者が利用できるリラックスという概念を中心とした遊具を備えた公園案が提示され、さらに、これも多賀町の政策課題のひとつである「多賀で伐採された原木、すなわちびわこ材を活用する遊具を中心としたアスレチック公園案」などが提示されました。

これら公園のアイディアは多賀町やNEXCO中日本のスタッフにも高い評価を受け、これら6つの公園案のもっとも良いところを組み合わせ、滋賀大学経済学部学生が提示する公園案が作成されました。

この最終案は2月15日（金）に多賀町にて開催された提言発表会にて、多賀町の市長やNEXCO中日本の副社長、滋賀大学経済学部の学部長などの幹部の方、さらに地域のマスコミの方々の参加の下、公開されました。

本プロジェクトの提案は実際に敏満寺遺跡を活用した公園の設計に実際に活かされる予定となっています。



多賀SA・敏満寺遺跡視察の様子



子育てサークル「パオパオ」でのヒアリング調査の様子

10

2018秋 社風発見インターンシップ

期 間 2018年11月16日-2019年2月26日

受講生 5名

担当教員 柴田 雅美

■ 活動報告

このプロジェクト科目は、滋京奈地域人材育成協議会が主催するインターンシップ事業に対応して実施したものです。滋賀・京都・奈良の中小企業を対象に、滋賀・京都・奈良の11大学の1、2年生が参加しました。本学からは5名が履修し、滋賀・奈良の中小企業で活動します。このインターンシップは、インターンに初めてチャレンジする学生を想定し、中小企業経営者や社員へのインタビューと職場体験を通じて中小企業の特徴や社風を観察し学び取ることを目的に設計されたプログラムになっています。

大学合同の事前学習会を2回行いました。12月22日には社会人マナーや企業研究方法を学んだ後、会社説明会シミュレーションを実施しました。受け入れ企業らがブース形式に並ぶなか、就職活動の会社説明会さながらに学生はブースをまわり会社説明を受けました。研修の2回目は1月19日に実施し、会社経営者による講演を聞いた後、このインターンシップで大事な要素となる「社風発見」について、自身の活動企業と他学生の活動企業との比較ポイントを見つけるグループワークを行いました。その後、企業への事前訪問を経て、3日間から5日間のインターンシップ活動を行います。2月26日には事後学習として、自身の経験と他学生の経験を持ち寄り、社風の比較をまとめ発表する予定です。

社風発見インターンシップは滋賀・京都・奈良という府県をまたいだ実施であるため、学生の居住にあわせた活動場所が提供できることが一つの利点です。また学生が一同に集まりしっかりと時間をかけて行う事

前・事後学習は、心構えができると同時に、他大学の学生との交流機会となり、互いに刺激を得られる好機になっています。

11

ヤリカタワークショップ2019春休み SDGsマインドを体得し、 地域社会のテーマに取り組む

期 間 2019年2月12日-2月14日

受 講 生 57名

担当教員 柴田 雅美

■ 活動報告

本プロジェクト科目は、COC+事業の一環として地域理解と複眼的思考の体得、社会人基礎力の向上を目的とするプログラムとして企画し、学生の何かにチャレンジしたい意欲とSDGs的視点を組み合わせながら、今後のキャンパスSDGsにつながるリーダー的学生の輩出や具体的なプロジェクトの提案をしてもらいました。「社会をより良くしたい」という大きな概念から一歩踏み込み「自分は〇〇する」という具体的なマイプロジェクトを見つけ、そのマイプロジェクトに共感者・仲間ができていくことが授業のゴールです。

1年生から4年生の57名が履修し、SDGsとは何かの知識の獲得、SDGsワークショップによるマクロな経験をした後、個人ワークやグループワーク、メンタリングによるマイプロジェクトの立ち上げや共感者を得るためのプレゼンテーションを実施しました。発表のなかには、具体的な学生活動につながるものが多くあり、4月からの取り組みに期待をしています。



12

働き方探求プロジェクト2019春休み
ドキュメントひこねびと
「彦根発 気鋭の若手経営者」

期 間 2019年3月4日-3月7日

受講生 20名

担当教員 柴田 雅美、中塚 智子

■ 活動報告

このプロジェクト科目は、彦根で働いたり、活動する魅力的な人を紹介することをテーマに映像制作を行う授業で、「ドキュメントひこねびと」の第7弾として実施します。今回も、デジタルビデオカメラやiPadなどを使用し、撮影と映像編集の基礎、撮影計画の立案等、著作権や映像倫理を学びます。映像制作指導は中塚智子特任講師を中心に、ドキュメント映画監督の長岡野亜さんを迎えます。

今回のテーマは、「彦根発 気鋭の若手経営者」。彦根市を中心に事業経営をしている若手経営者の姿や考えを取材し、彦根や彦根人（ひこねびと）の魅力を伝える短編映像を制作します。

完成試写会では、取材させていただいた方にもご参加していただきながら相互評価を行う予定です。



働き方探求プロジェクト 2019春休み



ドキュメントひこねびと
彦根発 気鋭の若手経営者

本プロジェクト科目は、映像撮影・編集の基礎、撮影計画の立案等の映像表現の基礎、著作権や映像倫理等について学び、実践することを通じて、企画構成力や表現力などの社会人基礎力の向上をはかります。

今回は、第一に彦根市を拠点とする若手経営者へのインタビューとその映像制作を通じて、経営者の経営に対する考え方やビジョンを伺い、大学での専門的知識と関連づけて学びの相乗効果を高めること。第二に、映像制作のプロセスを通じて、多面的な視点や計画性、創造力、コミュニケーション力など、学生が社会において求められる能力の向上を目的とします。

映像は、ドキュメント「ひこねびと」として、滋賀大生制作の映像アーカイブ「滋賀大チャンネル」に保存・公開を予定しています。

3月	3～5 限 (12:50～17:40)
4日	機器操作・撮影計画に関する講義と演習
5日	2～5 限 (10:30～17:40) 撮影・編集に関する講義と演習
6日	2～5 限 (10:30～17:40) 撮影・編集に関する講義と演習
7日	2～5 限 (10:30～17:40) 編集・仕上げに関する演習・合評

募集人数: 20名 応募者多数の場合は選抜になります

要件: 本プロジェクト過去履修者は履修できません
対象は1～3年生

単位: 2単位(経済学部生のみ)

担当: 中塚智子・柴田雅美

教室: 第17講義室

履修希望者は2月19日までにエントリーが必要です

お申込みお問い合わせ **地域連携教育推進室**

TEL 0749-27-1348 MAIL fukugan@biwako.shiga-u.ac.jp

13

国際交流ワークショップ・
プロジェクト2018春・秋

期 間 2018年4月12日-7月19日
2018年10月17日-2019年1月25日

受講生 春37名、秋19名

担当教員 柴田 淳郎、柴田 雅美、田村 あずみ

■ 活動報告

このプロジェクト科目では、日本人学生と留学生がともに、彦根や近隣町の歴史・文化、地場産業や自然を学び、体験するワークショッププログラムを通じて、地域理解を深めるとともに、お互いの交流を重ねて理解を深める機会を作ることを目的に実施しました。

春学期37名、秋学期は19名の履修がありました。春学期には、地域理解として彦根の地場産業の歴史や伝統技能についての講義やコミュニケーションづくりのためのワークショップ、大阪ガスショールームディリパ彦根での「出汁」レクチャーと調理体験などを行いました。秋学期には、本学学生と留学生との交流目的に加え、大学近隣にあるミシガン州立大学連合日本センター(JCMU)で学ぶアメリカ人を中心とした留学生との交流を企画しました。JCMUのハロウィンパーティーへの参画やクッキングレッスン&交流会、コミュニケーションづくりのワークショップなどを行いました。

授業を通じて共通の話題を作ることで留学生と日本人学生の心の壁が確実に低くなり、授業外での交流へと繋がってきています。交流を継続していくことが多様性の理解に繋がり、将来にグローバル人材として活躍できるベースになると期待しています。



14

グローバル・インターンシップ
2018夏・2019春

期 間 2018年8月27日-9月15日
2019年2月18日-3月9日

受講生 夏4名・春4名

担当教員 弘中 史子、田村 あずみ、柴田 雅美

■ 活動報告

このプロジェクト科目では、長期休暇中にアメリカ・シアトルに3週間滞在して、セミナーや現地視察、インターン実習を通してリーダーシップについて学びます。プログラムは米国NPO法人iLEAPが運営し、英語で行われます。8~9月に実施された研修には、本学から1年生1名、3年生3名が参加し、他大学からの参加者と一緒に学びました。また春休み中の2~3月に実施される研修にも、本学から1年生3名、2年生1名が参加します。

プログラムは平日朝から夕方まであり、リーダーシップとは何かを考えるセミナー、社会活動をする企業やNPOの現場視察、インターン実習を通じたグループプロジェクト、自己理解を深めるリフレクションなどに分かれています。学生たちは特に、日本でこれまで深く向き合ってきた「自分」について、過去を振り返りながら見つめ直すセッションに感銘を受けたようです。また先頭に立って問題を解決する人間だけがリーダーなのではなく、アイデアを出すなど自分の得意なことを活かしてグループに貢献することもリーダーシップなのだを知り、自分の強みを自覚できたと話す学生もいました。

シアトルはソーシャルビジネスやNPO活動が活発な土地です。現場視察では、ゲイツ財団や、ホームレス・失業者にレストランでの就業訓練の機会を提供する団体などを訪問しました。またホームレスの人々のための住宅支援や、フードロス問題に取り組む団体などでインターンを行い、課題解決や提言を行うグループワー

クにも取り組みました。

滞在中、学生たちはアメリカ人の家庭にホームステイをしました。コミュニケーションの行き違いや、多文化的な家庭環境に最初は戸惑った学生もいましたが、積極的に現地の環境に溶け込み、異文化体験を楽しむことができたようです。

帰国後の報告会では、自分の長所に気づいて自信を持てた、将来を真剣に考えるきっかけになったといった声が聞かれ、どの学生も大きく成長した印象を受けました。自分が社会にどう貢献できるかを考え、就職活動へと繋げた学生もいます。また、同じ志を持った他大学生と知り合えることも、このプログラムの魅力の一つであり、帰国後も友情を深めているようです。



15

地域共生論

期 間 2018年4月12日-7月19日

受講生 219名

担当教員 柴田 淳郎・柴田 雅美・澤木 聖子・
近藤 紀章他

■ 活動報告

教養教育科目として春学期に開講しました。地域の経済活動と市民活動に力点を置いて実施し、理論と実践を学んでいくことで、滋賀大学経済学部が立地する彦根市や長浜市、ひいては滋賀県という地域の価値について学ぶと共に、これらの地域が今後いかにあるべきかについて考えることをねらいとしました。オムニバス形式で15回の講義で、地域の経済活動は柴田淳郎准教授を中心に経済学部の先生方に担当いただき、市民活動は柴田雅美特任准教授を中心に、彦根市社会福祉協議会や近江八幡市のまちづくり会社にもゲスト講義をしていただきました。履修者は219名です。

授業を通じて、実際に地域連携教育推進室に地域とのつながりを求めて来室する学生が増えるなど、学生が地域理解を深めたり、実際に地域活動に興味を持ち活動できる一歩になったことも授業の効果です。



地域連携教育推進委員会

柴田淳郎（取組責任者）

井澤 龍

入江直樹

榎本雅之

澤木聖子

柴田雅美

須永知彦

田村あずみ

山田真紀（事務担当）

